

第二回地域創生戦略会議 委員意見対応

項目	意見要旨	対応方針
全般		
全体	取組方針に関して非常によくまとまっており、特に異論はない。これを具体策に落とし込む中で、いかに実行していくかというところをお願いしたい。	P8「Ⅲ戦略後期2か年の取組方針 1全体像、2共通基盤」に、後期2か年の重点取組の方向性を示す見直しの趣旨や、取組効果を高める共通基盤の設定について記載 (県市の役割については、第二回地域創生戦略会議 参考資料1「国・県・市町の役割整理」にて、基本的な役割を明示)
	個別の施策については、よくできていいと思うが、やはりどうしても総花的になっている。県のスタンスとして市町や民間に任せる部分を明確にし、県はどのような立ち位置に立つのかというスタンスを明確にすべき。	
事業間のロジック整理	様々な取組や事業が、どのような関連性を持っているかというロジックの整理が重要。ロジックが明確でなければ、事後的に事業が有効であったか評価ができない。	P9に、重点取組と効果や戦略目標への相関を示す概念図を記載 参考資料2に、現行戦略における自然増対策、社会増対策の主な事業に係る予算規模・担当課を明示
	今回は中間見直しなので、戦略の次に、戦術・戦法といった前線で展開していくことが必要。内容が非常に多岐に渡っているため、一点突破式ではなく全方向での戦いをしていくことが大切。	
	各政策のロジック・関連性を俯瞰的に把握するため、予算一覧表、各政策に対しての予算規模や担当課を記載した資料を作るべき。	
Growth Driver		
SDGs	ものづくり中小企業は、SDGsへの対応を難しく感じているが、今既に取り組んでいる働き方改革等がSDGsの一翼を担っており、まずは身近な問題から取り組むことが重要である。 もう少し中小企業が今取り組んでいることがSDGsに関係しているということを補足していただきたい。	P10「Ⅲ戦略後期2か年の取組方針 2共通基盤」に、SDGsを項目立てし、「理念や取組は個人や企業をはじめ社会に着実に浸透」など現状を記載 P19「後期2か年の重点取組GXの加速」において、SDGs認証制度創設など、中小企業の取り組みを推進
SDGs	とりわけSDGsを掲げ、大阪関西万博との整合性を図るだけでなく、ポスト万博における地域の持続可能性を目指すという姿勢を示されたことは、SDGs未来都市を狙う兵庫県の地域創生戦略として重要。	
SDGs	SDGsについて、言葉やマークが一人歩きし、その目標を達成する意義まで考えて使用している企業や自治体が少ないのではないかと。 17の目標に沿って、SDGsの項目と県の施策に関連性を持たせた内容、見せ方にすることで、共感や説得力が増すのではないかと。	

項目	意見要旨	対応方針
SDGs	SDGs 認証制度は登録して終わりとなっている。登録・宣言して、その先に何があるのかを施策に落とし込んでいただきたい。	P10「Ⅲ戦略後期2か年の取組方針 2 共通基盤」に、SDGs 推進による社会的意義や企業等のメリットを記載。効果的な制度運用について、施策推進の中で引き続き検討
SDGs	SDGs という名前は知っているが企業経営の中にどう活かせばいいのかと、悩んでおられるところが非常に多い。SDGs 認証企業に対して、県がどのようにサポートするかが大事ではないか。	
公民連携	行政、大学、民間企業のネットワークを活かし、機能構築に向けて連携していくことが重要。	P12「Ⅲ戦略後期2か年の取組方針 2 共通基盤」の一つとして、「公民連携」を位置づけ。連携のための基盤構築や、行政と民間の強みを活かした連携の重要性を記載。今年度スタートさせた「ひょうごSDGs Hub」をはじめ、様々な施策を推進しつつ、より効果的な連携方策を引き続き検討
公民連携	公民連携を掲げたことも望ましい。躍動する兵庫の主役は民間、県民であり、民間の躍動をいかにサポートするか、民間と行政がいかに連携するかがとても重要。	
公民連携	公民連携を進める際に、自治体もビジネスの視点をしっかり持って、どこまでが民間でできるのか、どの部分は民間でリスクをとるのが難しいかといった視点を持って事業を組み立てると、より民間企業が参画しやすくなる。	
Frontier		
GX の加速	GX には、農村社会が持続可能であるということが必要条件。全国農業協同組合中央会は「国産国消」を進めている。兵庫も県レベルでの、県産県消を進めていくべき。	P19「後期2か年の重点取組GXの加速」に、「環境創造型農業の取組拡大や地産地消の促進、県産木材の活用拡大」を記載
GX の加速	農業者自らが環境負荷低減に取り組んでいくことが必要。ただ、こういうことに取り組むには非常に大きな労力がかかる。肥料、飼料、資材価格がウクライナ侵攻などで高騰している。海外依存の脱却に向けた政策転換をどこかの課題の中にあげるべき。	P19「後期2か年の重点取組GXの加速」の「環境創造型農業の取組拡大」において農業経営体等への支援を推進 あわせて、現行戦略「重点目標1(5)ア農業の経営基盤の強化」のなかで、委員意見を踏まえた施策の充実を引き続き検討
GX の加速	みどりの食料システム戦略において国は2050年までに耕地面積に占める有機農業の取り組み面積を25%にしている。兵庫県は、これを前倒しして2040年までに達成するとか、小学校の学校給食における有機栽培農産物100%にするとか、エッジの効いた選択と集中があってもいいのではないか。	P19「後期2か年の重点取組GXの加速」に、「環境創造型農業の取組拡大」を記載し、委員意見を踏まえた施策の充実について引き続き検討

項 目	意 見 要 旨	対 応 方 針
<p>2025年大阪 ・関西万博等を見据えた大交流圏への進化</p>	<p>テロワールなどもあって、兵庫県のイメージはすごく良くなってきているのではないかと。あとはそれをどういうふう発信し、多くの人に知ってもらおうかというブランド戦略が必要。</p>	<p>現行戦略「重点目標2（1）ア県外からの誘客促進」における「SNS等の多様なメディアを活用した効果的な観光情報の発信」を引き続き推進するとともに、P.19「後期2か年の重点取組 2025 大阪・関西万博等を見据えた関西・瀬戸内大交流圏の形成」における「フィールドパビリオンの展開」など地域資源の磨き上げ施策の中で、委員意見を踏まえた効果的なブランド戦略を引き続き検討</p>
<p>2025年大阪 ・関西万博等を見据えた大交流圏への進化</p>	<p>神戸空港の国際化は喜ばしいが、国際化が決まったからといってすぐに国際便が飛ぶわけではなく、やるべきことは山積している。 また、インバウンドに注目しがちだが、大事なことはビジネスにつなげる、そして人口増につなげる戦略が必要。</p>	<p>P19「後期2か年の重点取組 2025 大阪・関西万博等を見据えた関西・瀬戸内大交流圏の形成」に「神戸空港の国際化を見据えた」取組として「ビジネスの戦略的推進」を記載 P9の図において、上記の取組が人口増にもつながるという相関性を提示</p>
<p>新たな技術や多様なチカラによる地域課題解決</p>	<p>人脈を拡げたい、自分の知識を活かして地元で社会貢献をしたいと言った時、それを繋げる仕組みがないこともある。施策のターゲットを考え、兵庫に住めば、社会貢献ができる地域であることをアピールしていくことが重要。</p>	<p>P19「後期2か年の重点取組 新たな技術や多様なチカラによる地域課題解決」に、「スタートアップ支援の強化（地域課題解決型のスタートアップ育成、スタートアップと県内既存企業のオープンイノベーション推進 等）」を記載</p>
<p>新たな技術や多様なチカラによる地域課題解決</p>	<p>高度外国人材の交流に関して、技能をもった日本人と外国人が交流することで、多文化共生のモデルが生まれれば面白いと考える。</p>	<p>P19「後期2か年の重点取組 新たな技術や多様なチカラによる地域課題解決」に、「高度外国人材や留学生等の受入促進」を記載し、委員意見を踏まえた人材交流施策の充実について引き続き検討</p>
<p>新たな技術や多様なチカラによる地域課題解決</p>	<p>中小企業の競争力を高めるためにはDX或いはオープンイノベーションが大切。オープンイノベーションでは得意分野をそれぞれの中小企業が持ち寄り、価値を想像できるプラットフォームを作ることに取り組んでいただきたい。</p>	<p>P19「後期2か年の重点取組 新たな技術や多様なチカラによる地域課題解決」に、「スタートアップと県内既存企業のオープンイノベーションの推進」を記載</p>

項目	意見要旨	対応方針
新たな技術や多様なチカラによる地域課題解決	農業従事者も高齢化している。地域によっては集団自治、いわゆる村が成り立たない地域が出てきつつある。農業、水産業、林業ともに、まず人の問題に取り組んでいくべき。	P19「後期2か年の重点取組新たな技術や多様なチカラによる地域課題解決」に「小規模集落における持続可能な生活圏形成」を、「同GXの加速」に、「スマート農業の推進」を記載するとともに、委員意見を踏まえた対策を引き続き検討
Return		
DX	DXが進展している中で従業員の働き方や意識は変わっている。リモート、副業の準備を企業サイドが行っていかなければならない。	P25「後期2か年の重点取組働き方改革先進県の実現」に、「テレワーク、ワーケーション、マルチワークなど多様な働き方の拡大」を記載し、委員意見を踏まえた施策の充実を引き続き検討
働き方改革先進県の実現	働く場として、ワークライフバランスを重視する学生も増えていると実感する。一方、仕事の内容や業種によって、やりがいや充実感を重視するという話も聞くので、やはり若者が働きたくするような仕事を増やしていくことが重要。	P9に示す概念図において、GXの加速など、成長産業の振興等が魅力や働きがいを感じる仕事の増加、県内就職の増加に繋がる趣旨を記載
移住施策の強化	少子高齢化が進む日本の中で、人口を奪い合っても仕方ないと思う。豊かな生活ができる空間をつくっていくことで、結局は都市間競争に勝ち人口が増える。東京+αというところにまさにチャンスがあり、つまり首都圏をターゲットにするのがいいと考える。	P25「後期2か年の重点取組移住施策の強化」に、「東京圏・大阪における移住相談体制の強化」を記載
移住施策の強化	若者の意識が今回のコロナ禍により変化があった。テレワークが普及し、生活の満足度を優先した選択が可能になったということから、地方移住に対する関心を要する傾向が高くなっている。	P24「後期2か年の重点取組働き方改革先進県の実現」に、「Z世代の就業志向を踏まえた企業のSDGsの取組促進」を記載
移住施策の強化	土地利用の規制緩和について反対はないが、もともと意味があって規制しているので、無秩序に緩和するわけにはいかないと思う。どういう農村部を作るか、どういう緩和をしていくのかなど、細かいところをしっかりと決めていかないといけない。	P24「後期2か年の重点取組移住施策の強化」の「市街化調整区域における土地利用の規制緩和」について、委員意見を踏まえ施策を推進
移住施策の強化	ターゲットとする人に情報をどう届けるかという点が肝になる。これまでの手法に追加して、SEO対策（特定のWebページを、検索結果に上位表示させ、流入を増やすために実施する対策）やターゲティング広告、SNS広告などの手法も活用し、ユーザーとのコミュニケーションを図れるようにしてはどうか。	P24「後期2か年の重点取組移住施策の強化」に「SNS等を活用した情報発信、ターゲット層への直的なPR等」を記載し、委員意見を踏まえ、具体的な施策を推進

項 目	意 見 要 旨	対 応 方 針
移住施策の強化	<p>政策には補助金や規制、税制があるが、まずは規制が邪魔をしてないかを第一に考えるべき。今回、市街化調整区域の話が入っていたので安心したが、補助金の仕組みを考えるのではなく、まずは規制が邪魔していないか、または規制で誘導できないのかを考えるべき。</p>	<p>本県では、県規制改革推進会議を設置し、県・市町における規制の見直しを推進。その代表的な課題である「市街化調整区域の規制緩和」をP.24「後期2か年の重点取組」として位置づけ。今後も、委員意見を踏まえ、様々な規制の見直しについて引き続き検討</p>
移住施策の強化	<p>20歳代は独身であると想定したとき、独身の男女が住むためのインフラ整備がない。20歳代の独身がいきなり空き家や古民家に住まない。 例えば、公営住宅等を工夫した独身用住宅や、民間住宅に対する支援等を行い、独身者が住みやすい、夢のある住む場所を用意する事も大切。</p>	<p>現行戦略「重点目標2(2)ウ地域特性に応じた空き家等の有効活用」の中で、委員意見を踏まえた施策の充実を引き続き検討</p>
移住施策の強化	<p>地方移住のポイントは、テレワークの定着と、ワークライフバランスの確保である。県内の企業や事業所ごとのテレワークの導入状況やワークライフバランス確保に向けた様々の制度の状況を見える化できないだろうか。 或いは、各市町、自治体の子育て支援策や生活支援制度について、見える化ができないか。</p>	<p>P25「後期2か年の重点取組移住施策の強化」に、「情報発信の強化」を記載し、委員意見を踏まえた情報発信について引き続き検討</p>
移住施策の強化	<p>兵庫県に定着してもらうためには、将来的にずっと住み続けたい、ここで自分はいいい子ども時代を過ごした、大切に育ててこられたという、そういう思いも必要だと思う。</p>	<p>P19「後期2か年の重点取組シビックプライドの醸成」を記載し、委員意見を踏まえた施策の充実について引き続き検討</p>
移住施策の強化	<p>e-県民アプリをもとにワンストップで問題解決できるような仕組みを構築できれば良い。現状では、個人情報を入力しないとアプリを使用できないが、まずは無登録でもアプリを使用できるようにし、登録者はさらに色々な機能を受けられるように機能強化することで、先ほど議論になった子供の預け先の問題等についても、アプリで解決ができれば、有効に作用するのではないか。</p>	<p>委員意見を踏まえ、e-県民アプリの効果的な活用方策について、引き続き検討</p>
シビックプライドの醸成	<p>地域の活性化や高校生を地域に引き留めていく施策として、ローカルで活躍するクリエイティブな人たちとの出会いのきっかけづくり、場づくりみたいなことが重要。 高校で探求授業が始まっており、学校の先生の中には何をやっていいかわからないという人もいるので、そのあたりと絡めながらうまく作っていくといい。</p>	<p>P25「後期2か年の重点取組シビックプライドの醸成」に、「地域で活躍する起業家クリエイター等と高校生との交流機会の創出」を記載し、委員意見を踏まえた学校教育の充実について引き続き検討</p>
シビックプライドの醸成	<p>高校生向けの起業家との交流やスタートアップアカデミーなど、高校生向けの施策は、効果が出るのにかなり時間もかかってくると思うが、2年で結果が見えないからやめるというのではなく、根気よく継続していただきたい。</p>	

項 目	意 見 要 旨	対 応 方 針
シビックプライドの醸成	<p>若い人たちがライブや旅行等にお金を使うことは確か。そして、ライブハウスとかの場所を推すということもある。そういう意味では、コンテンツは民間に任せ、兵庫県なりのイベント等ができる魅力的なインフラを作っていくことも大切。</p> <p>女性にとってトイレが使いやすい、食べ物がおいしいといった基本的なことや、外国人も含めたいろいろな人に対応できることが重要。また、快適さだけではなく、古くてちょっと汚いけれど魅力的であるとか、歴史的な魅力などストーリーのようなものも加味できるといい。</p>	<p>P25「後期2か年の重点取組シビックプライドの醸成」に、「兵庫のポテンシャルを活かしたスポーツや芸術文化等による地域活性化」及び「地域に根ざした産業・文化・営みにSDGsの視点から光を当て、魅力を高めるフィールド・パビリオンの展開」を記載</p>
Future		
結婚・出産・子育て支援の充実	<p>Future だけはエッジがあって、かなり子どもを産むことを強調するような戦略になっている点が気になる。もちろん人口減少リスクを緩和していくためには、行政として大事かもしれないが、そもそも行政がやるべきことなのか。もう少し現実が動いていくことに対する適応、多様な生き方や多様なライフスタイルがある中での適応、ということも考えた方がいい。</p>	<p>P20「Return ～地方回帰の流れを捉える～ 働き方・生き方」に、「一人ひとりの個性が大切にされ、自分らしく生きられる社会を目指しており、結婚して子どもを持つ選択をしない人も含め、みんなが安心して働き暮らすことができる寛容な意識を醸成」を記載し、多様性や新たな価値観に適応した施策推進の方向性を明示</p>
結婚・出産・子育て支援の充実	<p>事実婚の人たち或いは多様な生き方をしている人たちのことをパージしているような印象を受けた。この戦略が人口戦略であるということで、産み育てるという方針が必要だと思う。それは仕方がないことだと思うが、だからこそ、この部分の書き方は極めて丁寧にしていかないといけない。</p>	
結婚・出産・子育て支援の充実	<p>子ども食堂に関して困窮家庭を救うということではなく、共働き世帯などの一般の方にもコミュニティの場を提供するという考え方をどんどん広げていかないといけない。</p>	<p>P29「後期2か年の重点取組結婚・出産・子育て支援の充実」に係る施策推進にあたって、委員意見を踏まえたコミュニティづくり施策の充実を引き続き検討</p>
結婚・出産・子育て支援の充実	<p>多くの母親が悩んできた、子供の預け先がない、働きたくても働けないという課題に、まだまだ対策ができていないと実感している。自治体には、金銭面の支援よりも、まずは制度の整備、改善に取り組んでほしい。産業振興の観点からも、子育て支援の制度が未成熟であるので、女性活躍が進まないのではないかと。</p>	<p>P25「後期2か年の重点取組働き方改革先進県の実現」に、「ワークライフバランスやダイバーシティ&amp;インクルージョン（人材の多様性を認めて活かす）の促進強」を記載し、委員意見を踏まえた子育て世代の雇用環境整備の充実を引き続き検討</p>

項 目	意 見 要 旨	対 応 方 針
結婚・出産・子育て支援の充実	各市町で、子供の医療費や教育費用の支援が全然違う。私は今明石に住んでいるが、高校まで医療費が無料なので明石への転入が多いということもある。県の中で平準化までできないにしても少なくとも給付事業、財政支援で何とか県全体のバランスがとれないのか。	本県では、こども医療費助成をはじめ市町給付事業への支援や、保育定員の確保をはじめ、幅広い子育て施策を推進。今回の戦略では、給付事業に関して、P28「後期2か年の重点取組 結婚・出産・子育て支援の充実」に「国の出産や子育て、経済的負担軽減に係る各種施策の活用の促進」を記載。今後も、委員意見を踏まえ、経済的支援を含めた子育てに関する支援の充実を引き続き検討
結婚・出産・子育て支援の充実	20歳代後半から30歳代前半の人を対象に合コンの調査をして、恋愛コミュニケーションよりも経済的な基盤の方が割と大切であることが分かった。出会いや一時金の給付も大切であるが、出会い結婚対策としては就業支援が大切かと思う。	P.9に示す概念図でも就業雇用環境の整備が子育て基盤の充実につながっているとおり、その関連性を踏まえた施策を展開 現行戦略においても、「重点目標4（1）地元就業の促進」の施策を「重点目標5（1）結婚のきっかけづくり」にも位置づけており、一体的に推進
結婚・出産・子育て支援の充実	正規雇用と非正規雇用の結婚割合では、明らかに非正規雇用のほうが低い。やはり、経済的基盤が重要で、基本的には雇用政策が重要。雇用の流動化も進んでいるので、リスキングなどスキルをどのように経済状態に合わせていくのかという対策も必要。	前段は上記に同じ 後段は、現行戦略「重点目標4（1）ア 県内就業意識の高揚」における「地域との連携・協働による実践的な職業教育の実践」の中で、委員意見を踏まえたリスキング施策の充実を引き続き検討
結婚・出産・子育て支援の充実	デジタル技術による企業の変革で、単純な仕事はどんどん自動化され、失業や転職が増えてくる。いずれにしても、高度なスキルや新たなスキルが求められることになると思う。生活支援と、職業訓練とマッチングまでを一つのパッケージとしたセーフティネットとしての、再就職支援策を考えられないか。	
学びの環境の充実	県立学校の施設整備の記載があるが、農村部を回っている中で、やはり学校環境はかなり大事だと思う。市町も大変だと思うので、県と市町の関係の中でどのように市町をサポートしていくのかも考えながら、環境整備をすべき。	県と市町の役割分担を踏まえつつ、現行戦略「重点目標3（5）ウ子ども達の学びを支える環境の充実」において、委員意見を踏まえた施策の充実を引き続き検討
その他		
その他	地域創生戦略は、年数回の会議で方向性を決めていくこと自体に限界がある。枠組みを県庁だけで考えるというよりは、様々な意見が出ていてそれを実現するためには行政部門だけではなかなか進まないところがあるため、産学官で連携して実働のためのシンクタンクみたいなものをつくり、体制作りのところからこれにみんな向き合うべき。	委員意見を踏まえ、次期戦略策定に向けた体制の構築について、引き続き検討